

受賞者のご挨拶

株式会社 小滝電機製作所  
代表取締役社長 中村 英明 様



この度は、このような荣誉ある中小企業振興表彰を賜り、誠にありがとうございました。本表彰に関わる全ての方々に、従業員を代表して心より感謝申し上げます。

弊社は、通称EMSと呼ばれる電子機器の製造受託を生業とした会社です。自動車照明機器において国内では60%以上、グローバルでも20%以上のシェアを誇る大手メーカーから委託を受け、ヘッドライトやストップランプ、ウインカーなど、車両の外装用LEDランプ基板の生産を主力とし、その売上比率は90%以上となっております。弊社は、自動車メーカーのサプライチェーンの中でTier 2(2次下請け)の立場にあり、自動車メーカーの生産変動が即座に弊社の稼働に影響を及ぼす、近い存在であります。逆に弊社の生産が止まれば自動車メーカーの生産も止まるという緊迫感の下、BCP活動にも取り組んでおります。

現在、弊社で生産するLEDランプ基板の登録数は670品種を超え、2023年度は年間約1,800万個生産し、300車種以上の車に搭載され世界中に出荷されております。自動車業界というのは、ご存知の通り小さな部品の1つに至るまで1社1社の繋がりによって成り立っており、同じ部品を2社で生産する事はありません。つまり、1製品の受注が決まれば、その製品は世界中で弊社でしか作っておりませんので、本日お越しの皆様のお半分程度の方の車には、おそらく弊社で生産したMADE IN大館の製品が搭載され

ていると思われま

ています。弊社は、来年1月で創業45周年を迎え、車載事業への参入も今年でちょうど20年という節目の年となっております。せっかくの機会ですので、弊社の成立ちと取組みについてご紹介させていただきます。

弊社創業者は伊藤忠夫と申しまして、秋田市下浜の本敬寺に生まれ、結婚後「いつかメーカーになりたい」という夢を叶えるため、夫婦で上京し、1961年に現新宿区にある「小滝橋」の袂に小滝電機製作所を設立し、ソニー製のトランジスタラジオを生産しておりました。その後、伊藤の努力がソニーに認められ、秋田県出身ということもあり、当時小坂町で同じくソニー製のラジオを生産していた企業をソニーからの要請で吸収合併(M&A)し、1974年に現在の十和田オーディオを設立しました。その後、拠点を秋田に移すために東京の小滝電機製作所は閉鎖しましたが、業務拡大のため、1980年に現在の大館市比内町に、思い入れのある創業名を復活させたのが現在の弊社の始まりとなっております。当時はソニーの協力工場としてテレビチューナーの生産を行っておりましたが、バブル崩壊以降の海外進出などにより、国内での生産は空洞化が進み、弊社及び十和田オーディオを含めたグループ全体の規模は約3分の2まで縮小を余儀なくされました。さらに、その後も人材の流出が相次ぎ、2003年3月に弊社で生産していたソニー製品は全て十和田オーディオに集約しました。

この時期に合わせて、創業家以外からの生え抜きとして伊藤春美が2代目の社長に就任し、50名弱となった社員と共に、これまでの民生品だけではなく、産業機器など新たな分野の事業開拓を進めていたところ、現在の主要顧客と出会い、2004年12月に初めての出荷に漕ぎつけました。この当時は、圧力センサや画像センサ、事務機器等の産業機器を主力としており、車載事業にはまだ疑心暗鬼となっておりました。

2006年、創業時からの工場の老朽化に伴い、現工場（A棟）に移転しましたが、潮目が変わったのはその後のリーマン・ショックでした。当時の車載事業の比率は40%程度でしたが、産業機器への影響が長引く中、車載事業の回復は早く、必然と比率が高まり、車載事業への特化に向けた体制の構築に舵を切るきっかけとなりました。

2013年、14年にはトヨタ自動車の工程監査に合格し、顧客からの信頼度も高まっておりましたが、生産効率と品質をより高めるための生産技術力の強化も同時に進めてきました。特にLEDの高輝度化も進み、点灯中のLEDの明るさや色を人の目で判断することは限界となっており、検査の自動化が必須の課題だったことが、クイック光質センサと自動検査装置の開発へと繋がりました。このコスト改善と品質強化に加え、主要顧客のお膝元に営業事務所を開設した効果などから新規受注が大きく拡大しました。そのため、2015年に2,260㎡のB棟の増築に着手し、2018年には、さらに2,190㎡のC棟の増築に踏み切り、この年の生産数は1,980万個に上り、売上は92億円を達成しました。

2019年12月には、クイック光質センサを使ったものづくりの革新性を評価して頂き、「ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞」を秋田県内の企業として初めて受賞いたしました。翌年からコロナ禍がやってきました。

私は、2019年5月から3代目の社長に就任しましたが、コロナ禍によるロックダウンや半導体不足という理由があったにせよ、2021年度決算において、弊社の歴史の中で初めて経常赤字に転落し、さらに翌年度も2期連続で損失計上を余儀なくされました。幾多の苦難を乗り越えて来られた創業者と先代社長のお二人には大変申し訳なく、今回の表彰にも恐縮するばかりですが、未来を信じて、共に歩いてきてくれた従業員には、本当に感謝の思いで一杯です。

「努力せずして成功はなし 目指すは超一流」  
「優れた創造力と燃える情熱」

これは伊藤忠夫が残した創業者訓と経営理念です。この言葉を胸に、弊社は目の前の困難に常に挑戦し続ける精神が受け継がれております。

コロナ禍で苦しい時期が続きましたが、経済産業省「第5回事業再構築補助金」の採択を受け、弊社にとって新しい技術を用いたLEDヘッドランプの工法ラインを構築したことが、アメリカやメキシコからの受注に繋がりました。また、これまで主要顧客から門外不出であったコントロールユニットの受注が確定し、弊社では経験のない、ハイレベルな自動化ラインの構築を現在進めておりますほか、経済産業省「Go-Tech事業」の採択を受け、県内の産官連携によりクイック光質センサを活用した多種菌周病菌検出装置の開発にも取り組んでおります。さらに、本年3月、秋田銀行様のご支援により「SDGs宣言」を表明し、取組みを開始しております。

今後も、チャレンジ精神を絶やさず、挑戦し続ける企業でありたいと思いますので、皆様からの暖かいご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。